

母と子の伝説

飯倉を歩く

寺院や神社には、起こりや沿革、靈験などの言い伝えを書き記した「縁起書」を伝蔵するところがあります。

40年ほど前に拝見した飯倉（豊栄地区）・千手院の縁起には、浅間大神と「母と子」の伝説が書かれています。

千手院は千年ほど前、千手観音を本尊として創建され、子安尊には次のような伝説があります。

国道126号沿いは、耕地整理されるまでは沼があつて小舟が行き来していたそうです。

その昔、沼を干拓しようとした千葉氏がある夜、夢を見たとき、夢を見たとされます。千手院の観音様と共に女の子を抱いた女性が現れ、「千葉氏が干拓しようとする地は」私たち母と子が小舟に乗って亡くなった所だ。夫は千葉氏により自

膨らませて考えると、次のようになります。

縁起書は1926（大正15）年に書かれています。同寺は1852（嘉永5）年に火災に遭い、同7年再建しています。この費用を広く集めるため、千手院住職が当時管理していた母子の子安大明神の御利益を生かすよう縁起をまとめ、それに明治以降の変化を加えたのでしよう。

江戸時代、1750年ごろから三十数年にわたり、この神社が村境に所在することから母子村と飯倉村とで争いが続き、難産の者も出て困ったそうです。争論中のある夜、境内の全ての松が飯倉村の方向に傾いたので、領主は子安尊を飯倉・千手院にまつるよう裁定したとされます。

母子の子安様は、明治初年の神仏分離で千手院から離れ、「浅間大神」として改称されました。「千葉県宗教法人名簿」には、所在地が「母子飯倉入会1番地」と記載され、江戸時代からの名残をとどめています。

（市文化財審議会委員・

依知川雅一）

関秘書課広報広聴班

☎73・0080



豊栄地区飯倉にある千手院。その縁起には母と子の伝説が書かれている

害させられた。安産守護の神をまつるべきだ」と語ったといひます。そこで千葉氏は子安大明神をまつり、その場所を「母子」と名付けたので干拓が成功したと伝わります。母子（横芝光町）の地名と子安大明神の由緒が伝説となっています。この縁起が作られた背景を想像を